

第21回

世界の人口とSDGs

行方市SDGs推進アドバイザー・茨城大学教授 野田真里

1. 世界の人口は80億人に

人口とは、私たち一人一人であり、持続可能な開発・SDGs全般に関わる、非常に重要な意味を持ちます。国連社会経済局(UNDESA)は、7月11日の「世界の人口デー」にあわせて、『2022年人口推計』報告書を発表しました。これに基づき、SDGsの観点から世界の人口について、考えてみたいと存じます。

世界の人口は産業革命以降、加速度的に増加し続けてきました。が、ついに、今年(2022年)の11月には、80億人の大台に達すると予想されています(下図右軸)。世界人口は20世紀末の1998年に60億人、2011年に70億人に達したとされますので、今世紀に入っても「右肩上がり」で増加したことになります。

2. 人口増加と持続可能な開発・SDGsの関係

次に、人口増加と、持続可能な

開発・SDGsとの関係についてみてみましょう。同報告書では「急速な人口増加は、開発の進展を遅らせる原因であり、結果でもあらゆる「持続可能な開発の達成に向けた課題としています。例えば、学齢期の子どもや若者が増え続けると、教育の量的拡大が必要になりますので、相対的に、教育の質的向上のための資源が割かれてしまいます。また古典派経済学者のマルサスは『人口論』(1798年)の中で、幾何級数的に増加する人口と、算術級数的にしか増加しない食料との差が開き、過剰人口となり、貧困を招く旨、説いています。

他方、SDGsの達成(特に、目標3健康、目標4教育、目標5ジェンダー)を通じて、出生率が依然として高い国々において、これを引き下げることが期待されます。一般に、人口は健康状態が悪い状態では多産多死ですが、これが改善されるにつれて、多産少死、

そして少産少死へと移行します。ここには、教育が大きく関わっており、健康への知識や意識の向上のみならず、所得の向上とこれに伴う健康状態の改善、そして晩婚化につながります。また、女性の社会的地位とも大きく関係しています。1994年の国際人口開発会議(ICPD)で提唱された「性と生殖に関する健康・権利」、つまり女性がライフステージを通して、性や子どもを産むことに本人の意思が尊重され、自己決定できることが重要となります。

3. 世界人口の増加率は減少、初めて1%を切る

では、世界人口はこのまま増加し続けるのでしょうか?世界人口の数自体は増加が続いてきましたが、逆にそのスピードつまり、人口増加率は減少傾向にあります(下図左軸)。一時、2%を超えていた人口増加率は「右肩下がりに」減り続けており、2020年には初めて1%を切りました。国連の推計によりますと、人口増加率は今後も減り続け、人口も2058年に約100億人に増加した後、2080年代には約

104億人でピークに達するとされています。ご存じのとおり、日本は2008年の1億2808万人をピークに人口減少社会へと転換しています。2021年は前年比で64.4万人が減り、1億2550万となりました。1年で行方市の人口の約20倍が減少した計算になります。

図 世界の人口と人口増加率 出典: UNDESA (2022)

